伊勢友情
発行所・編集
三重県中勢防衛協会
TEL(059)228-9141
印刷　㈲ミフジ印刷

三重県中勢防衛協会では会員を募集しています。
〈申込及びお問い合せ先〉
〒514-0033
津市丸之内29-14
（津商工会議所内）
TEL〈059〉228-9141

第37代第10師団長 佐野浩司陸将　初度視察

久居駐屯地（司令・南平1佐）は、令和8年9月15日（火）、8月3日に第37代第10師団長として着任された佐野浩司陸将の初度視察を受けた。

師団長は、当初久居演習場において砲迫のバトラー訓練を視察された後、久居駐屯地に移動され、最初に慰霊碑を訪れ、殉職した御霊に対し哀悼の意を表された。

その後、記念撮影、会食、指揮官懇談、状況報告、隊内巡視、隊員との懇談及び師団長訓示を実施した。

視察に際し、連隊（駐屯地）の現況について報告を受けるとともに、隊内巡視において勤務隊舎及び生活隊舎を現地確認された師団長は、隊員一人ひとりに気さくに声をかけて会話しつつ隊員達の生の声に耳を傾けられた。

師団長訓示では、「巡視や懇談の際に一部の隊員の方々の話を聞き、駐屯地や各部隊の勤務環境や生活環境の話を聞きました。訓練や勤務がある中、今回の視察の準備本当にありがとう。南平連隊長を核心としてそれぞれ一致団結し、さらに精強な部隊となることを期待しています。」（要旨）と感謝の意を表された後に、部隊にさらなる期待を込められ、第10師団長佐野陸将の久居駐屯地初度視察は終了した。

部隊に答礼される師団長

師団長へ状況報告を行う連隊長

記念撮影

慰霊碑に献花される師団長

訓示を静聴する隊員

各施設を巡視される師団長

和やかな雰囲気での巡視

会食の様子

伊賀上野城 景観美化 寄与

伊賀上野城高石垣清掃

33普連（連隊長・南平1佐）は、9月14日（月）から18日（金）までの間、三重県伊賀市から依頼を受け、同市にある伊賀上野城の高石垣清掃を第1中隊（中隊長・月原1尉）を主力とする作業隊73名をもって実施した。

本活動は、約3年に一度の周期で実施しており清掃活動を通じてより多くの市民・県民に自衛隊の活動を周知している。

中隊は、本活動を格好の訓練の場と捉え、隊員の技能の向上とあわせて自衛隊に対する理解と認識を深めてもらい、防衛基盤の充実を図るとともに、伊賀上野城の景観美化に寄与すること、また根が石垣に入り込み崩れるのを防止することを目的として実施した。

この高石垣は、天守閣の周囲、東側を除く三方に高く積まれた石垣で高さは約30メートルあり、城の石垣では日本1・2を争う高さがある。その高さに物怖じせず、隊員達は協力して石垣を行き来しながらロープを巧みに使用し、石垣の隙間に茂ったフジやシダを鎌やノコギリ等を使って伐採した。

城のお堀では、渡河ボートで待ち構えていた隊員により、高石垣から落ちてきた雑木を阿吽の呼吸で回収した。

また、17日（木）の午後には、特別イベントを実施し、ロープ降下の訓練展示、ロープの結索体験及び車両展示が行われ、上野公園を訪れた方々に自衛隊をより身近に感じていただくことができた。

5日間続いた作業により景観を損ねていた雑木が取り除かれ、伊賀上野城の高石垣はその雄姿を再び取り戻した。

高石垣に生えたフジやシダを伐採

開始式の様子

清掃支援を見守る地域の子供達

高石垣（ビフォー）

第1中隊　任務完遂！

高石垣（アフター）

競技大会 運営支援

33普連は、9月18日（金）から10月3日（土）までの間、愛知県内において第20回アジア競技大会の運営支援を行った。

この支援は、アジア大会に対する運営を支援し、大会の整斉な進行に寄与することを目的に実施された。

名古屋市総合体育館において実施された水球、体操、新体操及びトランポリン競技の表彰式における国旗の運搬、掲揚等を、みよし市三好池において実施されたカヌースプリント競技における救助艇による転覆した選手の救助、医務室への搬送及び転覆艇の搬送等の支援を実施した。

支援の全般を通じ、安全管理態勢の確立と、適切な安全教育・指導を実施して、各種事故の絶無を図り、整斉円滑な大会実施に寄与した隊員達は、その任務を完遂した。

安全教育を実施する隊員（カヌースプリント競技支援）

緊張の表情を浮かべる隊員（体操表彰式）

救助艇から競技を見守る隊員（カヌースプリント競技）

国旗掲揚（体操表彰式）

自衛隊 魅力 伝

久居サマスク

久居駐屯地は、9月5日（土）駐屯地において、「久居サマスク」を三重地方協力本部の協力を得て、実施した。

本行事は、募集最盛期に「久居サマスク」を実施して、参加者の自衛隊への理解を促進することを目的に実施された。

当日は、連日の悪天候の合間にのぞく貴重な晴れ間となり、自衛隊に関心のある方及び駐屯地モニターの方々（以下、参加者）総勢58名が「久居サマスク」に参加した。

8時半に久居訓練場にて受付が開始され、行事を楽しみにしていた参加者が続々と集まった。

受付後、駐屯地内にて広報室長（片桐2尉）による説明が行われ、その後4つのグループに分かれて生活隊舎の見学、装備品展示・装備品装着体験、体験試乗、大型トラックによる訓練体験及び目標発見識別訓練体験、目測訓練体験、第2普通科直接支援中隊の重レッカーによる吊り上げ訓練展示を実施した。

特に目標発見識別訓練体験においては、戦闘訓練場内に設置した3つの目標を8倍眼鏡を用いて探索した。参加者達は、目標を発見すると、嬉しそうな表情を浮かべていた。また、目測訓練体験はクイズ形式で行い、自分達がいる地点から目標物までの距離を目測で測り、答えから一番近い回答の参加者には、久居駐屯地限定グッズが贈られた。

昼食は、駐屯地隊員食堂にて「四日市とんてき風焼肉」に舌鼓を打った。ボリュームたっぷりの昼食に参加者達は、大満足した様子だった。

行事を終えた参加者は、自衛隊及び久居駐屯地をより身近に感じることができ、「久居サマスク」は大成功に終わった。

８倍眼鏡を用いて目標を発見

受付の様子

目測クイズの正解者には
久居駐屯地限定グッズをプレゼント♪

自衛隊車両を見学

背のうの重さを体験

自衛隊の装備品を見学

駐屯地の食事に舌鼓を打つ参加者

隊員の居住スペースを見学

第２普通科直接支援中隊による訓練展示

「体験試乗行ってきまーす♪」

教育終、配属先

令和8年一般陸曹候補生課程（後期）及び新隊員特技課程修了式

新隊員教育隊は、9月16日（水）に厚生センター大会議室において、令和8年一般陸曹候補生（後期）及び新隊員特技課程（以下、新隊員）の修了式を挙行し、新たに33名の普通科隊員の誕生を祝った。

式は、各中隊長及び各先任上級曹長の陪列の下、厳粛に執り行われ、新隊員を代表して軽火器区隊の柘2士が執行者（連隊長・南平1佐）に対して申告をした後、軽火器区隊の戀塚2士と迫撃砲区隊の平2士が代表して修了証書を受け取った。式辞において執行者は、「本教育で学んだ資質と識能はあくまでも入り口であり、この先は部隊において積極的に心身を鍛え、技能を磨き、謙虚に学ぶ姿勢を忘れず任務に邁進し、普通科隊員としての一層の精進を期待する。」（要旨）と教育を修了した新隊員達に対して労いと激励の言葉を贈った。

同日、同期や班長達と別れ、各部隊及び各中隊に配属された新隊員達は、一人前の普通科隊員となるべく、さらに努力を重ねていく。

式辞を述べる執行者

申告の様子

式辞を静聴する新隊員

修了証書を受け取った
戀塚２士と平２士

VOICE・VOICE

「考動力」

軽火器区隊　2士　吉田（よしだ）温葵（はるあ）

私は、新隊員教育の約半年、特に後期教育の2ヶ月半で「行動力」という言葉が自分の中で「考動力」に変わったと感じました。

私は、前期教育の3ヶ月間では、初めての集団生活や、今までやってこなかった洗濯やアイロン、武器の使い方などほとんどゼロから覚えることの連続で、ただ誰かに指示をもらい、教えられて動くことがほとんどでした。そのため、前期教育の間は、自主的に動くのではなく、受け身の姿勢で行動することが多かったと感じます。

しかし後期教育に入り、全員が生活や訓練のことを少し理解するようになると、だんだんと指示を出される回数が減るようになりました。そうなると自分達同期の中で声をかけ合い、指示を出し合わなければなりません。しかしそれまで指示待ちで動いていた自分達は、なかなか上手く指示が出せず、互いに衝突したり、怒られてしまうことが多々ありました。特に私が指示を出すことの難しさを感じたのは、自分達が分隊長となった戦闘訓練です。この訓練では今までやってきたことを実際の状況で動くことの難しさ、不測事態に対して臨機応変に作戦を変えることの難しさ、正直に言うと何も上手くいかず、今までの訓練の成果を発揮することができませんでしたが、そこで私は気付きました。ただただ教えられたことを覚えて「行動」するのではなく、言われたことを自分の中でかみ砕き、それを状況に合わせて自らが考えて動く「考動」することが大切なのだと。

もう少しで教育が終わり、自分も部隊の一員となりますが、この「考動力」を忘れずに頑張っていきたいです。

新隊員後期教育を修了して

迫撃砲区隊　2士　杉本（すぎもと）翔栄（しょうえい）

前期教育では、自衛官として必要な基本・基礎や、体力、精神力等の基盤を築きました。後期教育ではそれに加え、普通科隊員に必要な知識や技能を深めることができました。

繰り返す教育の中で、最初は理解に苦しむ内容もありましたが、教官の方々のご指導や同期の助け合いにより、身につくことができました。

特に印象に残っている訓練は、砲手試験に向けた操砲の練成です。日頃の訓練の中でも初歩的なことから始まり、最初は理解に苦しみ不安になりました。灼熱の暑さの中の訓練で時間をかけて何度も何度も反復し、覚えこませていく訓練は地味でありながら、一つのミスも許されない緊張感の連続でした。

自分に足りない技術に直面した際には、同期の助言や指導を仰ぎ、互いに指摘し合いながら練度を高めていきました。その結果、砲手試験では無事に合格を果たすことができました。

後期教育を修了した今、まだ実践的な知識・技能において未熟な点があることを自覚しています。

今後は、配属部隊において、与えられた任務を確実に遂行できる隊員となることを目指し、日々の訓練や体力練成に励んでいくだけでなく、教育間、ご指導いただいた教官の方々への感謝を同期と共に忘れることなく、一歩一歩確実に成長していけるよう精進していきます。

給食業務実習を通して

三重短期大学　長島（ちょうじま）花恋（かれん）

今回初めての校外で行う実習であったのでとても緊張していて不安の気持ちでいっぱいでした。しかし、栄養士の中島先生をはじめ、たくさんの方々から優しく丁寧に教えていただいたおかげで理解しやすく、自分の知識へと結びついたと思います。

今回の校外実習で一番学んだこととしては、やはり大量調理の基本事項だと思います。幣校で学んだ大量調理とは明らかに使用する食材量や調理方法が異なり、回転釜の中で混ぜる力や回転釜から食缶へと移し変える作業でも力が必要となるため大変でした。陸上自衛隊の調理と聞くと量が多く体力仕事だと思いましたが、実際には作業効率も考えられており体力だけが必要という訳ではないのだと知れて良い経験になりました。

最終日の課題報告

回転釜での作業は煮る・蒸す・炒める・和えるなどといったほとんどの作業を行っているのだと知り、回転釜一つで多種多様な調理ができるのだと実感しました。また、回転釜の洗浄作業は加熱後だと回転釜自体が熱かったため、ただでさえ大きな釜で洗浄するのに苦労しますが、熱いためにに汗もかくのでさらに苦労しました。

配食作業も陸上自衛隊の隊員に均等に分配しなければいけなかったため、具材や汁気に偏りがないかを確認していて隊員の方々を待たせてしまったこともあり、改めて調理員の方々に感心しました。

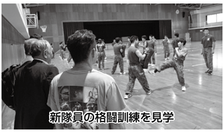
検収作業にも自衛隊の方々が関わっていることを知り、自衛隊員に栄養を届ける過程にも携わっているのだと分かり驚きました。

長いようで学んでいるとあっという間の5日間となり、たくさんのことが自分の知識へとつながって充実した実習期間となりました。

5日間本当にありがとうございました。

調理を行う長島氏

記者クラブ勉強会フォトギャラリー


新隊員の格闘訓練を見学

車両の展示・説明

司令・南平１佐による駐屯地概要説明

実際に装備品を装着

広報室長・片桐２尉による装備品展示・説明

ドローンの展示・説明

誰　明日　救

久居駐屯地曹友会献血活動

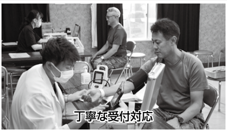
久居駐屯地曹友会（曹友会長・鈴村曹長）は、9月29日（火）に三重県赤十字血液センターが実施する献血活動に協力した。

当日は、駐屯地内マイク放送にて駐屯地内に所在する人たちへ参加を募ると、会場である厚生センターには、老若男女問わず多くの人たちが献血に参加した。

献血活動が恒例になっている隊員だけでなく、中隊に配属したばかりの新配置隊員や今回初めて献血に参加する若年隊員の姿も見られた。

献血車両では、赤十字血液センターの職員の方々の丁寧かつ優しい対応に参加した隊員達は、安心して血液を提供した。

久居駐屯地曹友会は、今後も積極的に献血活動に協力・支援し、誰かの明日を救うためにより一層社会に貢献すべく活動していく。


丁寧な受付対応

初めての献血にドキドキの新配置隊員

シーフテストを受ける隊員

タッチパネルで受付をする女性自衛官

和やかな雰囲気での献血

献血後の休憩スペース

定年退官者紹介

▽青木　英一朗　3佐（前　連隊本部）
9月21日付
定年後
ニッコン株式会社
鈴鹿センター営業所

長い間の勤務、お疲れ様でした。これからも健康に気を付けて頑張ってください。